教育内容	専門分野 成人看護学	時期	1年次	科目のねらい		
授業科目	成人看護学概論	単位	1単位	ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題を理解する。 様々な個人の生活様式や多様な価値観の中で生活する成人期にある対象の健康問題を理解する。 成人期における健康の保持増進・疾病予防の援助と看護の役割を理解する。 成人保健の動向および看護の役割について理解する。		
担当講師	小林 理絵 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数	30時間			
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	成長・発達過程からみた成人の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 対象理解:大人になること、大人であること 生涯発達とは 発達課題・発達段階(エリクソン・ハヴィガースト・レビンソン) 各発達段階の特徴(青年・壮年・中年・向老期) 	講義	小林 理絵	
	2	保健統計からみた成人の健康の動向	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の総人口(年齢別、生産年齢・労働人口) 成人の健康の状況(平均・健康寿命、健康格差、職業性・業務上疾病、作業関連疾患) 受療状況・生活習慣病・メンタルヘルスと自殺者 	講義		
	3	成人を対象とした保健・医療・福祉施策	<ul style="list-style-type: none"> 保健にかかわる対策(健康増進法) 生活習慣病(特定建國審査と特定保健指導) 医療にかかわる対策(医療法) 疾患対策(がん対策基本法) 労働者の健康対策(労働基準法、労働安全衛生法、トータルヘルスプロモーション、メンタルヘルス) 福祉に関する対策(障害者基本法、障害者総合支援法) 	講義		
	4・5	成人への看護アプローチの基本	<ul style="list-style-type: none"> 大人の健康行動のとりえ方 大人の学習(アンドラゴジーモデル) 行動変容を促すアプローチ(自己効力感<バンデューラ>、エンパワメント、強み、意思決定支援) 自己効力感に着目した症状マネジメント 	講義		
	6・7	ヘルスプロモーションと看護	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスプロモーション 予防のレベル 集団の健康を増進するための方法(ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ) ヘルスプロモーションを促進する援助 健康日本21 労働促進のための施策(労働基準法、労働安全基準法) 	講義		
	8	成人の健康をおびやかす要因	<ul style="list-style-type: none"> 健康バランスの構成要素と影響を及ぼす要因 ストレス 生活行動がもたらす健康問題と予防 就業、労働形態・飲酒、喫煙・運動不足、肥満 	講義		
	9・10	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	<ul style="list-style-type: none"> 急性期看護とは 急性期にある人の特徴 急性期にある人の看護(危機理論:アギユラ、フィンクの危機モデル) 	講義		
	11	慢性病とともに生きる人を支える看護	<ul style="list-style-type: none"> 慢性病の特徴 慢性病をもつ人の特徴 慢性病をもつ人の特徴(病みの軌跡) 慢性病とともに生きる人を支える(セルフケア、セルフマネジメント<セルフモニタリング・自己効力感、教育的アプローチ、強み、折り合い>) 行動変容を促すアプローチ(自己効力感<バンデューラ>、エンパワメント、強み、意思決定支援) ストレスコーピング理論(ラザルス) ソーシャルサポートの活用・チームアプローチ 	講義		
	12	障害がある人の生活とリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> 障害とは(WHOの障害分類、国際生活機能分類<ICF>) 障害の認識過程(フィンク、アギユラの危機モデル) 障害がある人とその生活を支援する看護 	講義		
	13・14	人生最期のときを支える看護	<ul style="list-style-type: none"> 人生最期のときにおける医療の現場 人生最期のときにおける緩和ケア(ターミナルケア、ホスピスケア、緩和ケア、エンドオブライフケア) 人間にとっての死(死の判定、死のプロセス) 全人的苦痛(トータルペイン)・死の瞬間(キューブラー・ロス) 人生最期の時を支える看護、看護師の役割・機能(ケアリング、意思決定支援、アドバンスケアプランニング<ACP>、チームアプローチ) 	講義		
	15	移行支援と先端医療(45分)	<ul style="list-style-type: none"> 療養の場の移行支援が必要とされる背景 療養の場の移行を支える看護アプローチの特徴と実際 先端医療と看護 	講義		
	16	終講試験(45分)				
	評価方法	筆記試験 課題提出、授業出席・態度 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論 I	単位 1単位	恒常性維持が困難になった対象を疾患、機能・病態と治療から捉えて特徴を理解しその看護を学ぶ。内部環境調整機能に障害をもつ患者の看護では生活習慣病や慢性期疾患を持ちながら身体障害と共存していく対象への教育的アプローチを学ぶ。腎機能疾患をもつ患者の看護では多臓器疾患との関連や医療の動向、透析治療と導入を行う患者の看護を通して、慢性疾患の増悪からシャント造設を行い退院に向けて自己管理していく患者の看護を学ぶ			
担当講師	久保田 泉 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:4年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	身体障害と共存する患者の看護 慢性期の患者の看護	セルフケア 成人の学習支援、自己効力感 エンパワメント セルフマネジメント ヘルスプロモーション	講義	久保田 泉	
	2	内分泌系疾患患者の看護	視床下部一下垂体系疾患患者の看護	講義	田中 友香	
	5		甲状腺、副甲状腺疾患患者の看護			
	3		内分泌器官の構造と機能、病態・検査・処置 症状に対する看護			
	4	糖尿病患者の看護	膵臓の構造と機能、検査・処置 I型糖尿病・II型糖尿病 症状に対する看護	講義	田中 友香	
	5	事例検討	糖尿病患者の看護(事例展開) ・機能と病態、検査・処置と看護 ・機能別アセスメント (健康管理・健康知覚、栄養・代謝、排泄) 看護問題の抽出、看護計画	講義 グループワーク	久保田 泉	事前・事後学習 ・アセスメント ・関連図 ・看護問題・看護計画の立案
	6					
	7					
	8	事例検討発表	糖尿病患者の患者指導	発表	久保田 泉	患者教育内容の発表をグループごとで行う
	9	事例検討	事例検討に関するまとめ	講義(45分)	久保田 泉	
	10	腎機能疾患を持つ患者の看護	腎臓の構造と機能、検査・処置、症状に対する看護	講義	佐藤 祐子	
	11	腎不全とは	腎不全とAKI・CKD、糖尿病性腎症 医療の動向	講義	佐藤 祐子	
	12	腎代替療法を受ける患者の看護	腎移植を受ける患者の看護	講義	佐藤 祐子	
	5		腹膜透析を受ける患者の看護			
	14		血液透析を受ける患者の看護 保存期～透析導入前 維持期 透析中止の判断			
	15	退院指導	シャント管理、食事・飲水指導、日常生活への看護	講義	佐藤 祐子	
16	終講試験	筆記試験	(45分)	久保田 泉		
評価方法	筆記試験(8割)、事前・事後学習内容・発表の取り組み姿勢(2割)					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]	成人看護学総論	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6]	内分泌・代謝	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]	腎・泌尿器	医学書院			

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅱ	単位 1単位	消化機能障害、代謝機能障害をもつ患者の病態と治療、機能障害から起こる症状に対する看護を学ぶ。消化機能障害をもつ患者の看護では、急性期から回復期へ向かう患者の障害受容、ボディイメージの変化、退院後の生活指導を学ぶ。代謝機能障害をもつ患者の看護では、エンドオブライフ期(終末期)にある対象の苦痛・苦悩と症状の緩和に向けた援助について学ぶ。			
担当講師	塚本 友恵 看護師経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目	
	1	消化器疾患をもつ患者の看護	食道疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護) 胃・十二指腸疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護)	講義	塚本 友恵	基礎分野 心理学 人間工学
	2		腸・腹膜疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護)	講義	塚本 友恵	人間関係論演習
	3	ストーマ造設患者の看護	心理的支援 (ボディイメージの変容と受容に向けての関わり) 術後合併症、皮膚障害 ストーマ装具の選択 セルフケア指導 退院後の支援、ストーマ外来での実際	講義	根岸 睦	
	4		ストーマサイトマーキング 装具交換	演習	根岸 睦	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法
	5	消化器疾患をもつ患者の看護	肝臓・胆嚢疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護)	講義	塚本 友恵	リハビリテーション療法 疾病治療論
	6		膵臓疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護)	講義	塚本 友恵	病態と治療Ⅱ
	7	エンドオブライフケア期にある患者の看護	全人的苦痛の理解、末期患者の心理プロセス 霊的(スピリチュアル)面 価値観・死生観・人生観 トータルペイン、がん性疼痛のメカニズム 疼痛緩和・症状と苦痛の緩和(オピオイド) 緩和ケア ケアプランと意思決定支援	講義	塚 久美子	
	9					専門分野 看護学概論 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程 ヘルスアセスメント
	10	事例検討	肝臓がん末期の患者の看護 ・対象理解、アセスメントの視点	講義 グループワーク	山田 緑	基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全
	13		・問題の抽出 ・看護の実際			看護管理・看護倫理
	14	事例検討発表	患者に合わせた安寧・安楽を考えた看護援助 症状と苦痛の緩和の看護	発表 グループワーク	山田 緑	
	15	まとめ(45分)	エンドオブライフ期(終末期)の看護とは	講義	山田 緑	
	16	終講試験(45分)	筆記試験		山田 緑	
	評価方法	筆記試験 課題提出 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅲ	単位 1単位	運動機能障害や女性生殖器疾患をもつ対象を通して機能障害をもちながら社会復帰に向かう対象への支援を多職種連携と看護の機能から学ぶ。 血液疾患患者の看護では、疾病と付き合いながら生活してきた対象が、疾病の治療・回復期に至る看護を通してその人らしく生活するための看護について学ぶ			
担当講師	塚本 友恵 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	運動器疾患をもつ患者の看護	大腿骨頸部骨折・大腿転子部骨折	講義	岡島 尚子	
	2		腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 脊髄損傷 関節リウマチ 骨腫瘍	講義	岡島 尚子	
	3	援助に必要な知識と技術	身体機能の評価 日常生活動作(ADL)の評価 基本肢位・良肢位と廃用症候群の予防 セルフケアを支える道具の活用 運動疾患と保険・医療・福祉制度	講義	岡島 尚子	
	4	リハビリテーション看護	リハビリテーションの実際と看護 ・障害の受容 ・セルフマネジメント ・家族支援 社会参加 制度の活用 ・多職種チームの連携 ・住居のアセスメント	講義	岡島 尚子	
	5 5 9	女性生殖器疾患(乳癌)をもつ患者の看護	医療の動向 病態と症状マネジメント 疾患を持つ患者の経過と看護 検査を受ける患者の看護 治療を受ける患者の看護 機能障害を持ちながら生活する人の看護 乳がん患者への支援 (意思決定支援 多職種連携 リンパ浮腫 アピアランスケア 社会復帰 AYA世代 妊孕性温存 ボディイメージの変化と受容)	講義 グループワーク (45分)	溝口 綾	
	10 5 12	女性生殖器疾患(子宮癌)をもつ患者の看護	子宮癌の患者の看護 医療の動向 病態と治療 疾患を持つ患者の経過と看護 病態と症状マネジメント リハビリテーションの実際と看護 ボディイメージの変化と受容	講義 グループワーク	太田 芙貴子	
	13 5 15	血液疾患の患者の看護 白血病患者の看護	医療の動向 病態と治療 疾患を持つ患者の経過と看護 症状とマネジメント 化学療法と看護、輸血と看護	講義 グループワーク	塚本 友恵	
	16	終講試験	筆記試験	(45分)		
	評価方法	筆記試験、レポート 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅳ	単位 1単位	呼吸器疾患の患者の事例を通して、周術期にある患者の身体侵襲とその看護を学ぶ。 手術前・中・後の患者の変化から予測の視点と術後合併症の予防とリスク管理について、対象の疾患・病態生理から対象の状況と変化を捉え個別性のある看護を考える。 また、形態機能の変化に合わせて、退院後の生活を見据えた生活指導についても学習する。			
担当講師	栗田 晃正 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	周術期看護の基礎知識	周術期にある患者と家族の特徴	講義	栗田 晃正	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習
	2		手術侵襲と生体反応 ・手術侵襲に対する生体反応 ・ムーアの分類 ・サイトカイン ・創傷治癒 ・手術部位感染(SSI)			
	3	手術前の患者の看護	外来における手術前の患者の看護 ・手術についての説明と同意(インフォームドコンセント) ・意思決定支援 ・術前検査 病棟における手術前の患者の看護 ・手術前オリエンテーション ・クリニカルパス ・術前アセスメント ・心理面への援助(不安、ボディイメージの変容など)	講義	栗田 晃正	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法
	4	術中の患者の看護	手術室の環境 手術室での安全管理 麻酔法 ・麻酔の目的 ・全身麻酔 ・挿管、抜管 ・局所麻酔 ・麻酔導入時の看護	講義	高橋 文	疾病治療論 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅳ
	5		手術中の看護 ・器械出し看護師、外まわり看護師の役割 ・術中管理とアセスメント ・手術体位とその影響 手術終了時の看護			専門分野 看護学概論 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程 基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	6	術後の患者の看護	手術後の回復を促進する看護 ・早期離床 ・疼痛管理、硬膜外麻酔 ・創傷管理 ・ドレーン管理 術後合併症 ・発生機序 ・予防と発生時の対応 ・術後のリスクアセスメント 退院に向けた看護	講義	栗田 晃正	
	7					
	8	呼吸器疾患患者の看護	肺がん 肺切除術を受ける患者の看護 人工呼吸器を装着する患者の看護	講義	原田 雅美	
	9		気管内吸引	演習	原田 雅美	
	10	事例患者に対する周術期看護	術前の看護 ・術前アセスメント ・術前オリエンテーション	講義 グループワーク	教員	
	14		術直後の看護 ・術直後の観察、アセスメント(術中の経過もふまえて) ・ドレーン挿入部の処置(消毒、ガーゼ交換)	演習		
			術後の看護 ・初回離床 ・離床後のケア(更衣、バルーンカテーテル抜去) ・術後合併症予防のための援助 ・退院指導			
	15	まとめ(45分)	周術期看護に関するまとめ	講義	教員	
	16	終講試験(45分)	筆記試験			
	評価方法	筆記試験 課題提出 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 看護技術プラクティス 学研					

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅴ	単位 1単位	現代の救急医療の現状と救急医療システム、初期対応とアセスメントについて学ぶ 循環器疾患患者を通して救急搬送時のアルゴリズム(検査、治療)、症状に対する看護、包括 的リハビリテーションと退院に向けた支援・退院指導を一連の看護展開の中で学ぶ			
担当講師	田中 好恵 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育 目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習 内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	急性期の看護	急性期看護の対象と心身の特徴 治療の特徴と患者・家族への影響	講義	山崎 祐嗣	
	2	救急看護	救急看護の特殊性、救急医療体制と救急システム 緊急性と重症度のアセスメント 全身状態の外観の観察とアセスメント 重要病態に対する救急処置と看護 (中毒・熱傷・ショック)	講義 グループワーク	山崎 祐嗣	
	3	救急看護	BLSの基礎知識、止血法	講義・演習	山崎 祐嗣	BLS演習は 特別教育活動
	4	重症集中ケアの看護	クリティカルケアの特殊性と看護	講義	山崎 祐嗣	
	5	循環器疾患患者の看護	医療の動向 虚血性心疾患の病態、検査・治療・看護	講義	田中 好恵	
	6	検査を受ける患者の看護	心疾患に関わる検査と看護 心電図、心エコー、脈波検査 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護	講義	田中 好恵	
	7	検査を受ける患者の看護	12誘導心電図、モニター装着している患者の看護	演習	石川 清美	
	8	治療を受ける患者の看護	内科的治療	講義	田中 好恵	
	9		薬物療法			
	10		PCIを受ける患者の看護			
			外科的治療 冠動脈バイパス術を受ける患者の看護 心臓リハビリテーション			
	11	循環器疾患患者の看護	不整脈の治療と看護 恒久的ペースメーカー植え込み術を受ける患者の看護	講義	田中 好恵	
	12	循環器疾患患者の看護	心不全の病態(左心不全・右心不全の違い)、 検査・治療・看護 自己管理への教育(心不全の病態や増悪因子) セルフモニタリング(血圧・体重)の重要性 定期受診の必要性	講義	石川 清美	
	13	循環器疾患患者の看護	心不全教室とは	講義 グループワーク	石川 清美	
	14		心不全患者への教育 再発予防 生活指導(食事・水分制限、禁煙など) 仕事や家事の負担 セルフモニタリング・受診の目安			
15	まとめ	講義に関するまとめ	45分	石川 清美		
16	終講試験	終講試験	45分	田中 好恵		
評価 方法	筆記試験(100点) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 医学書院					